

シャロンの花だより

東教区女性会会報 第82号 (22期 第2号) 2013年2月25日

主題 「虹の架け橋」

～祈り・仕え合うことで繋がりを～

「わたしは雲の中にわたしの虹を置く。

これはわたしと大地の間に立てた契約のしるしとなる。」創世記9章13節

ルーテルのミッション ～「おめでとう」で始まり「ありがとう」で終わる人生～

ルーテル学院大学 学長 市川一宏

I) 最近の社会問題

親が育てることのできない子どもをあずかる児童養護施設の帰り際、私が「またね」と言いましたら、「じゃあ、いつ来るの」と言われ、返す言葉を失いました。今、孤立死、自殺、引きこもり、虐待、被災地の問題、貧困と格差が顕在化しています。

II) 福祉の挑戦

1. 児童、高齢者という対策から、地域住民、家族という対策へ、2. 地域と関わる施設へ、3. 行政や福祉専門職、住民、ボランティアが協働した取り組みへ、4. 利用者の尊厳を大切にするサービスへ、と福祉の挑戦が始まっています。

III) ルーテル教会における社会福祉・教育

教会は、今から約90年前、関東大震災被災者のため、東京老人ホームとベタニアホームを建てました。その働きに関わった本田傳喜先生、スタイワルト先生は、「一人のいと小さき者になしたるは我になしたるなり」(マタイ福音書25章31節)という聖句をミッションとして掲げました。ルーテル教会の特徴は、社会に希望を生み出し、たくさんの働きを示し続けてきたことです。福祉の挑戦は、ルーテルの働きでもあります。

IV) 「おめでとう」で始まり、「ありがとう」で終わる社会を

命は祝福して与えられたもの。子どもは、誰もが祝福されて命を与えられた。そして人は老い、一人だけでは歩くことができないと知った時、たくさんの方に支えられて今を生きていることを理解し、人生の最後にあつて世話になった人に「ありがとう」と言う。このような人生を求め、日本社会が求めている「希望」と「絆」を再生していくこと。今は、それぞれの場で、互いに支えあい、生きていくことが大切な時期になっています。

クリスマスオーナメント・ブローチ制作ありがとうございました！



(八王子教会 立石節子)

ルーテル神学校をお支える為にどうしたらよいかとの思いから、東教区女性会役員会では、クリスマスオーナメント・ブローチを制作・販売する事になり、東教区各女性会へその制作のお願いをしました。

ところが、何と21教会から809個ものクリスマスオーナメント・ブローチが寄せられました。また、その他、手作りの袋や手芸品も集まり、それらを一日神学校、東教区女性会会長会、東教区宗教改革記念礼拝のそれぞれの会場で販売いたしました。多くの教会では、材料も献品して下さいました。その結果、100,465円を神学校へ献金することが出来、有難うございました。役員会からの呼掛けに、ご協力下さいまして心から感謝申し上げます。余りに多くの献品を目の前にして大変心強くうれしい悲鳴を上げ、何とか売り尽くそうと張り切りました。43個の残った献品も、2人の役員が東日本大震災被災地の訪問の際お持ちしました。

女性会の力がいかに大きいかが証しされ、神様に感謝した素晴らしいできごとでした。

神様に感謝！東教区女性会に感謝！お買い求め下さった兄弟姉妹に感謝！今後とも、よろしく願い申し上げます。

ブローチ制作発案者様より

長野教会 佐藤友香

東教区女性会で手作りの品を各教会で神学校支援の一助に作ってとの話に、私たちは瓶の王冠利用のクリスマスツリー飾りの製作時に出る端布でクリスマスブローチを以前から製作しており、今回呼びかけられたので応募しました。

一日神学校のバザーコーナーでは、沢山の手芸品であふれていたとのこと。

女性の優しい底力を嬉しく思いました。小さなことでも賜物を活かしてこれからも力を集めてご奉仕できたらと思います。

会長会報告



(藤が丘教会 清野智佳子)

10月6日、秋の柔らかな日射しのそそぐ午後、第2回会長会が藤が丘教会で開かれました。東教区社会部長で千葉教会牧師の、小泉嗣先生の開会礼拝により、参加者の心がひとつにさ

れ、ルーテル学院大学学長・市川一宏先生のご講演に聞き入り、時に笑い、また目を見張りました。

第22期を率いてくださる役員を浅野会長よりご紹介いただいた後、山谷で活動を続けておられる「ほしくずの会」の活動を、大岡山教会の関口さんと市ヶ谷教会の赤間さんがお話してくださいました。

皆様に藤が丘へおいでいただくのは、久しぶりのことかもしれません。遠方からもお出かけいただき、駅からの長い坂をのぼって大勢のかたにお集まりいただき、礼拝堂が恵みに満たされたことを感謝しております。藤が丘教会女性会の、心ばかりのおもてなしは如何だったでしょうか。今後も教区女性会の一員として、主のみ助けを頂きつつ、できることを協力して続けてまいりたいと思います。

女性会連盟担当者紹介：鈴木直子

8月から連盟担当として、教区役員に加えていただきました。皆さまの活動に遅れること半年でしたが、温かく受け入れて頂き感謝しています。(連盟では書記を担当。)

現在、連盟役員会は年に3回開催されるだけです。連絡事項はすべてメールで行いますが、ひとつの教区から連盟担当が二人いると、毎月教区役員会で顔を合わせ、直接話すことができます。そのことをとても心強く感じています。顔を合わせることは大切ですね。

ほしくずの会 ～ 炊き出し支援

(雪ヶ谷教会 大牧正子)

“ほしくずの会”の呼びかけでほしの家での炊き出しに参加しています。

毎週火曜日の午後、三ノ輪のほしの家に10～15人が集まり、ご飯を炊く人、量ってお椀に入れる人、練った梅干を入れる人



おにぎりを結ぶ人、ラップにくるみ発砲スチロールの箱に詰める人等、それぞれにベテランの方々が手際よく担当しています。握る人は4～8人位と日によって違いますが、650～700個を作ります。味噌汁は大きな寸胴鍋3つに油揚げ、ワカメ、ねぎ等々、

その日にある野菜を細かく刻んで入れ、出汁雑魚と味噌でおいしい味噌汁が出来上がります。夜7時過ぎから車で所定の何方所に配りに出ます。みなさんは待っていて、喜んで下さいます。配る時まだおむすびも味噌汁も暖かく、この寒い時期暖かい食べ物が一番でしょう。

ほしの家では米、塩、梅干、海苔、野菜、味噌等の献品と献金を募っています。参加している方々は何年も続けている人もいれば初めての人もいて、お互いの名前を知らなくとも和気あいあいと楽しく働いています。この不況の時期ばかりでなく20年もの間、山谷の路上生活者に温かい食事を提供し続けている活動です。多くの人が関わって、それぞれが出来ること無理なく、長く続けることが大事だと身に染みて感じています。

尚、今年の世界祈祷日の献金先の一つとして“ほしくずの会”も選ばれています。

被災地訪問

(千葉教会 石田せつ子)

昨年12月5-6日石巻の仮設住宅に大牧さんと伺いました。仮設の集会所でつるしびなを作り、お茶をいただきながら少しだけおしゃべりをしました。教区からのクリスマスプレゼントも喜んでいただき、皆さんと交流のひと時をもつことができました。

多くの子ども達が亡くなられた大川小学校では、野口先生、小泉先生と祈りを捧げて帰路につきました。



*** 今後の予定 ***

- 3月 1日 (金) 世界祈祷日
3月20日 (水) 東教区総会 コーヒーショップ担当
4月13日 (土) 22期第3回会長会
於：日本福音ルーテル雪ヶ谷教会
5月 4日 (土) 東教区50年記念大会
7月頃 シャロンの花だより 発行予定

編集後記

ちょうど一年前. . . .

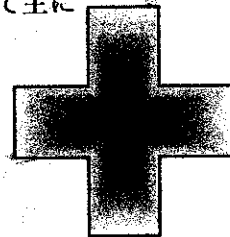
何も分からないままに集められた私達ですが、主の助けによって最初の年を過ごすことができました。感謝です！様々な活動を通して新しい出会いがあり、又、色々な方の貴重なお話を聞く機会を与えられたことも感謝です。

22期「シャロンの花だより」第2号を発行するにあたり、この半年の歩みを振り返り、今後の私達に何が求められているのか. . . . を改めて考えています。

役員会では早速、次の会長会へ向けての準備も始まっています。

2年目の歩みも主のみ心を求めつつ. . . . 主に助けられて主に従って非力な私達が用いられることを祈ります。

感謝！！ Y. Y.



「シャロンの花だより」

東教区女性会会報 第82号 (22期 第2号)

発行日 2013年2月25日

発行人 日本福音ルーテル教会女性会連盟 東教区女性会

発行者：浅野聖子

編集：安田やまと